平成19年11月1日
11月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
愛知教育大学
附属岡崎小学校長
中田　敏夫氏
この人に聞く …… 2
協和発酵　男子卓球部
坂本　竜介氏
羅針盤 …… 2
生徒指導指導員
永野　光雄
ふれあい …… 3
岩津小　千賀しのぶ
矢作北中　大竹　蔵人
特集 …… 4
岡崎市中学生交流事業
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
第1回ササユリ訪問
（昭和59年）
この本を …… 8

教育随想

火と言葉

愛知教育大学
附属岡崎小学校長
中田　敏夫　氏

今夏、五年生と体験した林間学校では、学校とは違う子どもたちの生き生きとした姿や活躍が随所に見られ、とても楽しいものでした。そんな中、二度の飯盒炊さんの様子からかいま見える子どもたちの様子は印象的でした。マッチが使えない、火が怖くて薪を置けない、熱く焼けた鍋の柄を薄い布のまま持って火傷をしそうになる。そこには火の具体的な姿や力を経験していない様子がうかがえました。

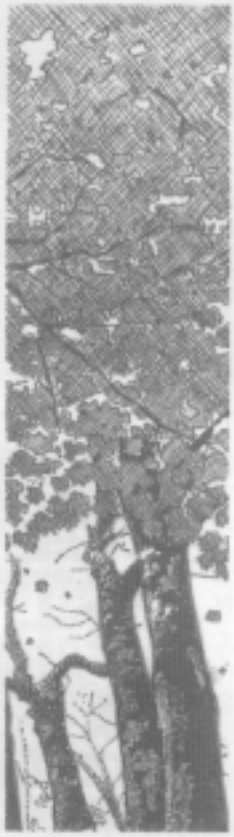
巷ではオール電化が言われ、子どもたちはガスコンロの火さえ縁遠くなっています。火は、動物の中で人間だけが使える道具として手に入れたものです。ある時は火事を起こし、火傷をさせます。一方、冬には暖が取れ、動力を生み、火力発電による電気エネルギーを生み、その電気が電化製品を動かしてくれます。

実は、言葉も火と同じく、その使い方で暖かくもなり、人を火傷させる暴力にもなります。燃えさかるような熱い一言もあれば、人を勇気づける言葉もあるでしょう。火が動力を生んだように、言葉も文字を生むことで遠く離れた所に言葉を運べるようになりました。言葉は、高度な伝達性と構造性、文学作品のような創造性を生み出しました。

そんな言葉の世界に子どもたちは今、どう付き合っているのでしょうか。火と同じように言葉の具体的な姿や力を経験していないのではないでしょうか。

子ども同士がもっと率直に触れ合う場面が多様にあり、言葉により傷付くこともあれば、勇気をもらうこともある、人と人を繋ぐ大事な絆となる生（なま）の言葉の世界を多く経験できたらと感じます。それが、言葉による思考力・創造力・直観力の育成とコミュニケーション能力の育成の基になってくれるのではないでしょうか。

（なかだ　としお）



ふるさとシリーズ

この人に聞く

今を一生懸命に

協和発酵 男子卓球部 所属
坂本 竜介 氏

「やめたいと思ったことは何度もありましたが、父親が怖くて『やめたい』と言い出せませんでした。」

学生時代のことを笑顔で話される坂本選手。

今年一月の全日本卓球選手権では、同じ高校出身の福原愛選手と組み、混合ダブルスで優勝。八月に行われた全日本実業団選手権大会では、団体優勝を果たし、すぐに海外遠征と多忙な毎日を送っている。

「矢作南小学校へ通う二年生のころ、兄とともに卓球を始めました。矢作中や矢作北中の方たちと練習したこともあります。ずっと、父親がコーチでした。練習はスパルタでした。でもそのおかげで、今まで続けられました。感謝しています。」

中学校時代に青森の中学に移り、高校生と練習するようになった。

「一気に強くなったような気がしました。毎日毎日練習で、あのころは卓球しかやっていませんでした。」

中学校三年生の時、全国中学校体育大会で優勝し、ジュニアの大会でも、当時最年少で優勝した。青森山田高校に進学し、ますます技術に磨きがかかる。

「高校二年生の時、全日本選手権で偉関選手とベスト16をかけて対戦しました。フルセットの末、先にマッチポイントを取りながら、逆転負けしたのです。その大会の優勝者は偉関選手。今までの卓球人生の中で、一番悔しかった試合です。実力が足らないのだと実感しました。」

高校三年の秋、ドイツに卓球留学することになった。

「国内だけでは、限界がありました。青森大学に籍を置き、プロリーグの契約選手として、毎週末試合をこなしました。ドイツのプロリーグでプレーしてきたことで、世界中に人脈が増えました。人と人とのつながりが自分にとって一番の財産です。」

「次の一点をどのように取るかを考えてプレーしています。練習してきたすべての技術や判断力を、ここ一番で出せるよう集中するのです。」

穏やかな表情ながらも、何かしらオーラを感じる。

「『今を一生懸命に』を大切にしています。卓球一筋にやってきて、これは僕の揺るがぬ信条です。」

来年一月に行われる全日本選手権では、福原選手と四年連続、ダブルスを組むことが既に決まっている。

「混合ダブルスは連覇。シングルスでも上位進出を狙いますよ。」

国内でも海外でも、ますますの活躍が期待される。

氏　名　さかもと　りゅうすけ
生年月日　昭和五十九年十一月二十五日
住　所　東京都板橋区坂下二―三十―十五
協和発酵工業　板橋寮

自己存在感

生徒指導指導員　**永野　光雄**

「暴走族を抜けたい」他校のB子とともに問題行動を繰り返してきたA子。そのA子がB子と一緒に暴走族をやめるというのだ。しかもこのことを親に言えば、先生との関係も切るという。しかし、簡単にやめられるほど甘くはない。案の定、市外のある場所に呼び出されたA子とB子。暴行される危険性があるため、休日の夜間、そっと張り込んだ二校の生徒指導主事。何かあれば飛び出す覚悟だ。

なぜA子は自分を変えようと決意し、それを教師にだけ伝えたのか。そのキーワードは「自己存在感」にある。A子を心から心配し、何度裏切られても信じ続けた教師の姿に、「自分は大切に思われている」とA子は感じたに違いない。

A子は特別としても、子供が一日

ふれあいエッセイ

水泳への挑戦

岩津小　千賀しのぶ

水泳が苦手な五年生のA子。プールカードをもらった日から、毎晩泣いていると母親から相談があった。登校を最優先に頼むと、A子は水泳用具を持たずに登校し、下を向いたまま座っている姿が続いた。「本当はどうしたらいいのか、自分の心が一番知っているはずだよ」と伝え、保護者には、家庭での働きかけを依頼した。

母親の説得もあり、次の学習から、A子は覚悟を決めたかのようにプールをしっかりと見るようになった。その数日後には、「プールへ入ってみようかな」と母親へ手紙を書いた。

ようやく水の中に入るようになったが、いつも緊張した面持ちだった。フォームは良いのに、あせってしまうのか、泳げる距離は短くなるばかり。そこで、「立つ前の思いはどう」「息継ぎは怖いかな」など、泳いでいる時の気持ちを対話で引き出し、

「今は良かったよ」「もう一回やってみようか」と励まし続けたところ、A子は助言に真っ直ぐな視線を向けるようになった。そして、友達の応援もあり、ついに、二十五メートルを泳ぎ切ることができた。

A子の顔は、照れと安堵感であふれていた。「大丈夫。自信もって」と話すと、彼女は、力強くうなずいた。

お前が必要だ

矢作北中　大竹　蔵人

A男が二年の冬休みだった。学校生活に興味がなくなり、サッカー部の練習にも参加しようとする気配がなかった。毎朝迎えに行き、部屋まで上がり込み、直接起こした。他の部員たちと起こしに行ったこともあった。生活は昼夜逆転し、時には深夜徘徊で補導されることもあった。「部活は最後までやり通すと俺と約束したよな」「うるせえ」「俺はしつこいぞ」そんな会話をよく交わした。

総体四日前、勝負に出た。朝練習の前に迎えにいくと、A男は「もういいよ。俺、総体は行かん」と言い切った。

そんなA男を車に乗せ、高速道路を走り、遠くのサービスエリアで朝飯を食べた。しばらく黙っていたA男が口を開いた。「なんでそこまでするの」「チームのやつらと約束した。お前が必要だ」「みんなあほや」A男は笑顔で涙を流した。「学校へ帰るぞ。お前も俺もあほや」総体の結果は負けだった。しかし、A男はもどって来た。最後の夏の大会も勝てなかったが、A男は部員と一緒だった。

卒業式の日、A男を始め部員たちが集まり、あいさつに来た。涙が止まらなかった。「俺、ばかですよね」そう笑顔で言ったA男に、笑顔で応えた。

の大半を過ごす授業の中で、どれほど私たち教師は、意識してこの「自己存在感」を育んでいるだろうか。

生徒指導訪問で出会った自己存在感を育てる授業のポイントは、三つ。

①子供の参加度を高める手立てや発問の工夫。（子供の授業準備への配慮・一問一答でない発問）

②子供の意見や考えを尊重した見やすい板書。（ネームプレートや三色チョークを使用している）

③発言やつぶやきへの温かい対応。（指名する際「～君」「～さん」と呼び、子供が発言した時「ほかに」と切り捨てず、「なるほど、そうか」と受容している）

すべての子供を大切に思う教師の姿勢は、授業の中にこそ如実に現れ、子供はそれを正確に見抜いている。

こっそり見守っていたことを知ったA子とB子は、二人の生徒指導主事に感謝し、無事暴走族を抜けたという。A子やB子を含め、各学校が心配な子供に対して、温かくもきめ細かな支援をしていることに頭が下がる。

生徒指導の基本は「自己存在感」。このことを肝に銘じながら、かけがえのない子供のために奔走する教師の姿が、今日もある。

岡崎市では、「岡崎市中学生交流事業」として、ニューポートビーチ市（アメリカ）、ウッデバラ市（スウェーデン）、呼和浩特（フホハオト）市（中国）、との交流活動を実施している。また、旧額田町において実施されていた額田中とクアラルンプール市（マレーシア）のスリ校との交流も継続されている。

昭和五十七年から始まったニューポートビーチ市への訪問は今年で二十六回を数えた。また、呼和浩特市への訪問は、今年二十年目の節目を迎えた。「岡崎の未来を担う児童・生徒に夢と希望を持たせ、広い視野にたって郷土の発展を考え、国際親善・交流を深める」という訪問のねらいは、これまでにも多くの成果をあげてきた。

「心の通じ合うもうひとつの家族ができた」「もっと大きい人間になって、再会したい」「星空の美しさに世界観が変わった」など、参加した生徒たちの言葉からは、自らの人生に生きる貴重な経験をした思いが伝わる。

今年九月、呼和浩特市を訪問した石原比朗志団長（美川中学校長）は「最も印象的であったのは中学生同士の交流です。互いに言葉が通じなくても、別れるときには涙を流すほどの仲になっているのです。人と人とが心を交わす。このことが何より大切だと実感しました」と感想を述べられた。

昭和六十二年に岡崎市より贈呈された「仲よしの像」は、呼和浩特市役所の前で、友好の証（あかし）として変わらずに建っている。

多感な中学生の時期に、外国を肌で感じ、自分の生き方を考えることは貴重な経験である。人と人との交流がさらに進むように期待したい。

▲雄大なコゲンタラ草原

岡崎市中学生交流事業のあゆみ

昭和五十五年
【ウッデバラ】
派遣事業開始（派遣生徒二名）
昭和五十七年
【ニューポートビーチ】
派遣事業開始（派遣生徒四名）
ホームステイを体験
昭和六十年
【ニューポートビーチ】
受入事業開始
昭和六十三年
【呼和浩特】
派遣事業開始（派遣生徒六名）
平成元年
【クアラルンプール】
旧額田町において派遣事業開始
（額田中から派遣生徒二十名）
平成九年
【呼和浩特】
スポーツ交流が加わる。この年は卓球を実施するため派遣生徒が六名から十二名に
平成十年
【呼和浩特】
中学生受入事業開始
平成十五年
【呼和浩特】
SARS（新型肺炎）により交流中止
平成十六年
【ウッデバラ】
二十五年ぶりに派遣事業再開
（派遣生徒六名）

第1回呼和浩特訪問の思い出を語る

平成19年8月

モンゴル族には、お葬儀をしたり、あぐらをかいたりするなどの習慣があります。いずれも漢民族にはあまり見られないことだったので驚きました。また、パオ村で地元の方に蒙古斑（もうこはん）の話をしたときに、そこに居合わせた雑技団の母親が、自分の子供のお尻を見せて共鳴されたことも印象に残っています。日本との深いつながりを感じる訪問でした。呼和浩特訪問は私にとって生涯の誇りです。

（第一回団長　大山紀司先生）

▲訪問当時の大山先生と由良さん

▲20年ぶりの再会 由良さん宅にて

どこまで歩いても草と土。そのような大草原で、パオに泊まった時の星空の美しさが一番の思い出です。プラネタリウムで見るよりもすごい数の星。天から自分の所に落ちてきそうな流れ星。大自然の中で、自分の存在の小ささを感じました。中学生という多感な時期にこうした大自然にふれたことは、私の生き方に大きな影響を与えたと思います。

（第一回派遣団員　由良隆幸さん）

▲仲よしの像の前で

▲ソンマルヘム校での授業風景

▲内蒙古電力中学校を訪問

▲呼和浩特副市長を表敬訪問

▲岡崎市長が提携20周年を記念して雪見灯籠を寄贈

▲イスラム教の衣装を着て

▲スリ校で三味線「さくら」を披露

▲コロナ・デルマ校で五万石踊りを披露

▲ホストフレンドとともに

平成十六年
【呼和浩特】
ウッデバラ交流協定にあわせて派遣生徒が十二名から八名に
平成十七年
【呼和浩特】
一日のホームビジットから、一泊二日のホームステイへ
【ウッデバラ】
受入事業開始
平成十八年
【クアラルンプール】
岡崎市・額田町の合併に従い、平成二十年までの三年間に限定して継続
【ニューポートビーチ】
派遣生徒が四名から六名に
平成十九年
【呼和浩特】
岡崎市長・教育長が参加し、交流二十周年を祝う記念式典が呼和浩特で盛大に行われた。

▲呼和浩特市教育長付東海（ブートンハイ）氏と今後の発展を約束

お知らせ

●教育最新情報

○教員研修事業の充実

平成十五年度、岡崎市が中核市に移行して以来、研修権が県から市に委譲されてきている。研修を市で実施することにより、実態に応じた研修が可能になった。また、研修場所への移動時間も短縮されるなど、利点は多い。今後も、県と協議しながら徐々に委譲項目を増やしていく。

研修は、教員の「専門性」「人間性」「指導性」そして、「マネジメント能力」の一層の向上を目指し、それぞれの教職経験や職務、目的等に応じて体系的、段階的に設定されている。

〈教員研修基本方針の重点〉

・実践的な指導力や総合的な人間力など教員の資質向上に資する研修

・学校が直面している教育課題の解決に資する研修

・教育情勢を見据え、教育改革の進展に対応するための研修

〈研修の内容〉

研修の内容により、大きく次の五つがある。

①基本研修

教職経験に応じた体系的・総合的な研修

・初任者研修

・五年経験者研修

・十年経験者研修

②職務研修

マネジメント能力を身につけ、学校経営に関する資質・能力や職務に応じた職責遂行のために必要な知識・技能等の研修

・新任校長・教頭研修

・新任教務主任研修

・特別支援教育研修　等

③専門・課題研修

組織マネジメント能力の資質向上、職務に関する専門課題や教育課題に対応する研修

・教科領域基礎研修

・組織マネジメント研修

・授業力・教師力アップセミナー　等

④派遣・自主研修

教育制度や教育課程の先進的な取組等の研究調査、学習指導や生徒指導等の指導力向上の研修

・社会体験型教員研修

・滞在研修　等

⑤現職研修

各教科領域、特別委員会などの活動や校内での研修

▲初任者研修

●ハートピアだより

○校外で思い切りの活動
―ぶどう狩りを通して―

二学期が始まって、新しく生活する児童生徒が急に増えてきた。部屋にすんなり入ることのできる子、そうでない子がいる。早く子供たちが打ち解けるように、校外行事を年間計画に入れている。ここ数年、果樹園の方の温かいご協力もあって、「ぶどう狩り」を行っている。

参加募集のちらしを配ったところ、はじめ三人の希望があったが、それ以後おとさたがなかった。登録生十二名や準備生、その保護者を入れると、もっとたくさん参加希望があってもよいのではないかと、所員みんなが心配して口にしていた。

結局、保護者、職員含めて二十八人の大人数になった。また、ハートピアの子供たちを日頃から応援してくださっている方にも参加していただき、嬉しい限りであった。

当日は、ちょうど食べごろのぶどうがたわわに実った果樹園で、子供たちはお腹いっぱい食べることができた。新しく入った子のことが少し心配であったが、みんなと一緒に仲良く弁当を食べている姿を見ることができた。獲ったぶどうを仲良く分け合っている姿も見ることができた。隣接のアスレチックではみんな仲良く一つになっているようであった。

普段ハートピアの中では見ることのできない姿も見ることができた。このことが、明日からの力になってくれるように、職員一同心より祈った。

●表彰

◆愛知県学校関係緑化コンクール

学校環境緑化の部

特選　愛知県知事賞　形埜小学校

入選　愛知県教育委員会賞　岡崎小学校

常磐東小学校

新田中学校

◆全国自作視聴覚教材コンクール

最優秀賞（文部科学大臣賞）

・「心の扉を開く―生活挑戦者と共に生きる―」（中学校・ビデオ）

優秀賞

・「乙川―水質の変化を追え―」（中学校・ビデオ）

・「額田の森を守れ―炭まき大作戦―」（小学校・ビデオ）

歩すべて市自作教材制作委員会

▲形埜小環境緑化活動

◆第三回あいち子ども短歌コンクール

岡崎市教育委員会賞

六ッ美中部小四年　清水賢太

◆第二十八回ジュニアオリンピック陸上大会　愛知県大会

砲丸投げ・女子

優勝　福岡中　太田　奈穂

四位　岩津中　向坂　詩帆

四百メートル　男子

四位　矢作北中　神谷　立法

二百メートル　女子

七位　山本　知奈

百メートル　男子

五位　福岡中　小山　優矢

八百メートル　男子

四位　美川中　石川　駿

六位　常磐中　柴田　将也

千五百メートル　男子

八位　美川中　松澤　仁志

千五百メートル　女子

八位　岩津中　杉本ゆみほ

走幅跳　男子

四位　竜海中　安藤　諒太

走幅跳　女子

七位　美川中　近藤有理沙

▲中学校新人戦

◆第40回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性	優勝	2位	3位	3位
陸上競技	男	竜海	六ッ美北	南	—
	女	竜南	矢作	六ッ美北	—
バスケットボール	男	北	竜南	矢作北	葵
	女	南	北	六ッ美北	美川
バレーボール	男	矢作	北	額田	竜海
	女	矢作北	福岡	新香山	岩津
ソフトテニス	男	矢作	竜海	河合	竜南
	女	矢作北	竜海	南	甲山
卓球	男	矢作	城北	矢作北	六ッ美北
	女	額田	美川	北	南
体操	女	矢作北	東海	竜海	—
新体操	女	東海	南	矢作北	—
剣道	男	矢作北	額田	福岡	矢作
	女	竜海	矢作	矢作北	南
ハンドボール	男	竜南	六ッ美	美川	葵
	女	美川	竜南	六ッ美北	—
軟式野球	男	六ッ美北	矢作	六ッ美	北
ソフトボール	女	甲山	北	葵	矢作北
柔道	男	矢作	矢作北	竜南	甲山
	女	矢作北	竜南	甲山	—
サッカー	男	甲山	附属	福岡	竜南
水泳	男	矢作	矢作北	城北	—
	女	矢作北	葵	甲山	—

●水泳競技の部

★印は大会新記録

種目	男子 氏名	校名	記録	女子 氏名	校名	記録
50m自由形	鈴木健太良	竜海	28"07	大河内瑞穂	美川	30"20
100m自由形	西尾　次郎	城北	58"90	今井　佳純	北	1'06"66
200m自由形	大橋　諒輔	矢作	★ 2'06"09	大岩　葵	葵	2'23"02
50m平泳ぎ	脇田　直輝	矢作	★ 33"67	谷　葉澄	矢作北	★ 38"51
100m平泳ぎ	渡部　剛太	矢作北	1'14"95	野沢　好	矢作北	1'22"70
50mバタフライ	石川　尚哉	矢作北	★ 28"77	高山　千絵	新香山	★ 31"67
100mバタフライ	藤井　大立	矢作	★ 1'02"02	山本　悠	甲山	1'10"14
50m背泳ぎ	藤原　俊典	矢作	32"97	佐々木麻衣	北	34"49
100m背泳ぎ	石井　大貴	矢作北	1'11"82	中嶋　友美	矢作北	★ 1'09"41
200m個人メドレー	坂ノ下佳亮	矢作北	2'44"23	武藤　優紀	城北	2'43"53
400mリレー	藤井・佐々木 藤原・大橋	矢作	4'08"42	中嶋・谷 松山・野沢	矢作北	4'28"42
400mメドレーリレー	藤原・脇田 藤井・大橋	矢作	4'28"88	尾崎・青山 山本・鈴木	甲山	5'00"62

●陸上競技の部

	種目	氏名	校名	記録
男子	100m	田中　威史	竜海	12"0
	200m	森　大輝	竜海	25"7
	400m	中村　宥哉	矢作	1'00"6
	800m	山本　雅人	六ッ美北	2'15"5
	1年1500m	本田　元樹	六ッ美北	4'50"4
	3000m	竹内　洸貴	矢作	10'04"4
	110mH	清水　陽平	甲山	17"6
	400mR	石井・田中 大久保・森	竜海	50"2
	走り幅跳び	大久保元輝	竜海	5m35
	走り高跳び	倉橋　亮	甲山	1m50
	砲丸投げ	鴨川　顕豪	美川	9m24
	棒高跳び	榎　将太	南	3m00
女子	100m	山口明日香	北	13"5
	200m	安田　涼子	竜南	28"3
	1年800m	大塚あやか	六ッ美北	2'40"1
	800m	加納　実樹	竜海	2'36"1
	1500m	近藤　華菜	甲山	5'16"4
	100mH	長村　礼花	竜南	17"6
	400mR	木村・久嶋 長村・安田	竜南	55"6
	走り幅跳び	野田美佐江	東海	4m70
	走り高跳び	鈴木　裕子	六ッ美北	1m35
	砲丸投げ	太田　奈穂	福岡	10m95

●体操競技

女子	氏名	校名
個人総合	鈴木　里奈	竜海
床運動	鈴木　里奈	竜海
平均台	鈴木　里奈	竜海
跳び箱	鈴木　里奈	竜海

●弓道

	氏名	校名
男子	石谷　隆一	額田
女子	鈴木　優恵	額田

●柔道

男子	氏名	校名	女子	氏名	校名
軽量級	佐々木彰良	竜南	軽量級	笹元　智美	矢作北
軽中級	林　隆政	矢作	軽中級	稲垣　妙織	甲山
中量級	林　和希	矢作	中量級	平岩愛有加	矢作北
重量級	三井　大輔	矢作			

フォトヒストリー

岡崎の教育

第１回ササユリ訪問

（昭和59年）

写真提供：新香山中学校

昭和五十年代に入り、都市化の波がササユリの自生地にも押し寄せた。心ない人々の乱獲や自然条件の変化などによってササユリが減少し、絶滅寸前になった。そこで、新香山中学校の前身である香山中学校で、ササユリ保護活動が始まり、今日まで受け継がれている。写真は、昭和五十九年六月、新香山中学校となって第一回目の老人ホームへのササユリ訪問である。

ササユリが咲く、豊かな自然に囲まれた美しい郷土にしようとする気持ちが、生徒の心を培っている。環境教育推進にとって、活動を継続していくことの意義が大きいことを表している。

・カット　矢作北中　都築秀次

この本を

＊心の琴線にふれる言葉　齋藤　孝
草思社　¥1,300

＊名将に学ぶ人間学　童門冬二
三笠書房　¥1,400

＊徳川家康は二度死ぬ　赤司典弘
ぶんか社文庫　¥600

＊教師格差　尾木直樹
角川書店　¥686

＊求心力～人を動かす10の鉄則～
ジョン・C・マクスウェル，ジム・ドーナン
齋藤　孝（訳・解説）
三笠書房　¥1,400

「求心力」とは，人の心を揺り動かす力，人を一瞬で動かしてしまう力，カリスマ的な影響力のことをいう。本書では，人を動かす10の鉄則として興味深い例を挙げて，その秘訣を解き明かしている。人はいつでも，相手の期待に応えようとする。だからこそ，その人の話に耳を傾け，激励し，褒めることが大切だ。「脳みそも心と同じ。褒めてくれる人のほうを向きたがる」まさにその通りである。

オアシス

幼い子供によく見られる蒙古斑。これも中国とのつながりを表すものであるという。そして「青い城」と呼ばれ、内蒙古自治区にある呼和浩特市との交流は二十周年を迎えた。

海外の風土・文化・人にふれ、岡崎市中学生交流事業が、今後も中学生の心を揺さぶる活動でありたい。

指揮者のタクトに集中する輝きあふれる眼差し。どのクラスも様々な問題を乗り越えながらこの日を迎えた。タクトが振り下ろされた瞬間、ハーモニーが広がる。メンバーの創り出すハーモニーは、心の響き合いとなって聴く者を圧倒する。

「心の合唱」に熱き拍手を送りたい。

「あけましておめでとう」と新年のあいさつをする年賀状が発売開始となった。今回から、「カーボンオフセット年賀」が加わった。販売価格五十五円のうち、五円が寄附金となり、地球温暖化防止を推進するプロジェクトを支援するそうだ。個人レベルでも地球に貢献できる。

すきま風に、近づく冬を感じる。年代物の我が家には、柱と障子の間にできた三角形のすきまから、季節を知らせる風がよく通る。

夏に開けっ放した障子も、紅葉を過ぎるころには閉じる時間が増える。秋の夜長は、厚手の上着をはおって教材研究だ。